

ゆうだち

ほそかわ ももか

「バジツ、バジツ、バズンッ」

おかあさんとくるまにのると、きこえてきました。

「あ、はじまったのかな」

と、わたしがおもったのとどうじに、

「バジバジバジバジー」

あっというまに、あたりはそらからのしろいせんでいっぱいになりました。

「バジャバジャバジャバジャー」

ゆうだちです。おおつぶではやいあめが、いっぺんにたくさんおちてきて、くろ

いおそらは、さっきまでこのじゅんびをしていたのかとおもいました。

ゆうだちのまえは、かみなりでした。

「ゴゴゴゴゴ」

「ガラガラガラ」

「ドドドドド」

ときどきピッカアーとひかりながら、いつもよりながいあいだいろんなおとをだして、かみなりはいばりつづけていました。あっちのほうでバリバリ、こっちのほうでガラガラと、どのかみなりもおおきなあばれんぼうのようでした。くもとそらはいっしょになったみたいにくらくなって行って、まるでそらがかくれんぼしているみたいでした。とりのうたごえもむしのなきごえもきこえません。かみなりだけが、げんきいっぱい、つよそうで、すこしこわいなとおもいました。

くるまのやねに「バチン バチン」とあめがあたっているのをききながら、おかあさんといっしょのときでよかったとおもいました。はじめはこわかったけれど、なんだかわくわくしてきて、わたしはいまからなにかがはじまるとおもいました。

「バダバダバダー」

「ボズボズボズー」

「ザザザザザー」

どしゃぶりになって、くるまのやねに、まどに、あめがあたっているんなおとがきこえてきました。それはまるで、おおきたいこや、ちいさいたいこをちからいっぱいたたいているリズムのようでした。

「ひゃー、まえがみえないよお。」

おかあさんがハンドルをりようてでにぎっていました。ワイパーが「ガーツツ ガーツツ」とはげしいおとをだしながら、みたことのないスピードでうごいていました。

あめは、どんどんはげしくなって、じめんにあたるとしらくとびはねて、あそんでいるようにみえました。ひさしぶりのあめは、よろこんでいるんだねとおもいました。

しんごうでとまると、あかいろがぼやけてきらきらしていました。いつもとおなじみちをはしってきたのに、いつもとちがうところにいるようでした。

だんだん、あめのおとがおんがくのようにきこえてきました。そして、おんがくをかなでているのは、かみなりさんたちだとおもいました。さっきのあばれんぼうのかみなりさんたちがあつまって、パーティをしていて、たのしくなってきました、そ

らからおんぷを、いっぱいなげおとしているんだとおもいました。

わたしは、あめのひがだんだんすきになってきました。つぎはどんなおんがくがきけるのだろうとおもうと、あしたもあめだったらいいなとおもいました。

おかあさんがライトをつけないとあぶないねといいながら、いつもよりずっとゆつくりくるまをはしらせていました。わたしはふと、なつやすみのがっこうはだいじょうぶかなとおもいました。せんせいはおうちにかえっているのかな。かさをもっていたのかな。それから、あるいているひとやじてんしゃのひと、おさんぽをしている犬はだいじょうぶかな。このままずっとかみなりさんたちのおんがくかいがつづいたら、どうなるんだろうと、きになりました。

テレビのニュースで、あめのちからでいえがこわれたり、おうちにかえれなくなつてこまっているひとをみたことがあります。おうちがなくなったり、がっこうがなくなったら、わたしのたいせつなものもなくなって、おともだちにもあえなくなつてしまいます。そうなつたらどうしようとおもいました。

「もう、たいがいにしなさいよ。」

ずっとおんがくかいをきいていたいきもしましたが、もうじゅうぶんだのしんだのでおさまつてほしいとおもいました。

リズムがきこえなくなったとき、ちょうどいえにつきました。わたしは、おんがくかいのまくがおりたようなきがしてさみしくなりました。

くるまからおりと、そらはおかあさんのすきなピンクいろになっていました。

そして、とおくのそらに、わたしのすきなみずいろがありました。

「きょうはとくべつゆうやけがきれいだから、あしたはとくべつはれるね。」
といいながら、おかあさんとかえりました。きつとかみなりさんたちも、おうちに
かえったんだとおもいました。

つぎは、どこで、どんなおんがくがきこえるのかな。おかあさんといっしょじゃ
なかったら、またべつのおんがくがきこえるのかとおもいました。

げんきでたのしいおんがくばかりがきこえるといいな。